

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第八小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も学校教育目標・目指す学校像を全職員で意識し、子供ありきの学校運営を行っている。 全職員が同じベクトルを向いて教育活動を行っているよう、PDCAサイクルを意識して日々アップデートしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年・学校だよりの内容が充実していて、学習内容もわかり、保護者も安心である。 教員は子供のために一生懸命動いている。 ホームページ、テトでよく状況を把握できる。 Grandデザイン、学校教育目標、今年度の重点目標等がホームページで公開されているのがよい。 校長を筆頭に組織的に取り組んでいるが、全職員がと言われると判断は難しい。 学校運営協議会として評価するには情報が限られており、評価することが難しい。 学校と協働しながら互いの負担を増やすことなく、より実効性のある学校運営協議会の在り方を模索していきたい。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	A	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の連絡手段として各教室、各学年に学校用の携帯電話やトラシーバーを設置する等設備面での改善が必要である。 小さな問題であっても管理職への報告・連絡・相談を徹底する。 登校時間前に登校している班が多く、昇降口前に並んでいて、開けたと同時に勢いよく校舎内に入ってくる児童が多いため、登校時間の徹底を今後も家庭に周知する。 不審者対応訓練を年1回行うことで、危機意識を醸成させる。 さす股の設置場所を再検討する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> tetoruでの細やかな配信は保護者が安心する。 やさしい心、思いやりの心が育つとよい。 避難訓練で「おかしもち」が守られている。 学校だよりで防災、いじめ防止等が取り上げられているのがよい。 いじめアンケートを含めて体制整備の取組が感じられる。 事故対応等の各種危機管理マニュアルが整備されていて、危機管理が日常の行動として一定程度身につけている様子は伺える。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導が必要な児童に対して、担任だけでは限界があると感じている。補習の時間を確保する日課表や年間指導計画の工夫、支援員等の人的支援が必要である。 特に体育では、系統立てて縦のつながりを考えて授業を行うことで、必要な資力・能力をより身に付けさせることができるという考えのもと、年間指導計画の見直しを進めていく。 学力の高い児童が多いことで、わかる・できる子のペースで授業が進みがちにならないよう、個別最適な学びを充実させていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習が遅れている児童への対策を考えてほしい。 図書室を活用している子供が多い。 タブレット端末の有効活用が必要である。 A時代に必要な学力・知識が変わってきているが、よく対応していると感じられる。 基礎学力の「定着」をどのような観点で捉えるか、その考え方や指標が共有されることで、学校運営協議会としてより適切な評価ができると考える。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の観点から、十分な教材研究もできないまま、帰宅せざるを得ないのが現状としてある。教材研究ができる必要な時間を確保するために、会議や行事の精選をさらに進める。 校内研修に限らず、学年で一つの教科、単元を教材研究したり、授業参観しやすい環境を整える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いっばいほめて成長させてほしい。 個別に対応が必要な児童への支援は担任だけでは難しいので、課題である。 学力向上の取組はできている。個別対応が必要な児童や外国籍の児童への指導が見えない。 基礎学力の定着という観点では学校として着実な成果をあげている。 校内研修の集約、全国・埼玉県学力・学習状況調査の分析と改善策の検討、さらドリルの活用を通して、授業改善に継続的に取り組み、努力している様子はうかがえる。 学校運営協議会として、行き過ぎた要望や過度に先導的な期待が学校現場の負担とならないよう、学校と共に学び、共有していく姿勢を大切にしたい。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題が多い。特に授業中の学習規律については、指導が行き届いていない部分が多いため、全学年でそろえるところと、各担任の意向(始業・終業のあいさつや挙手の仕方など)に任せられる部分と、はっきりわかるようにする。 名札、上履きのかかと、ハンカチなど小さなことからきちんと全職員で声掛けをし、統一した指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶ができていて素晴らしい。 廊下歩行、挨拶等指導されたことを守ろうとする児童が多い。 教師から指導されたことに応じる力は身に付いている。 あいさつについては、継続的な取組の成果として児童の行動に一定の変化が見られ、評価できる。 交通安全については、大きな課題が見られる。交通安全の定着には、学校、警察だけでなく家庭、地域、行政も含めて共通認識をもって連携していかねばならない。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 本校スタンダードのようなものが、もう少し徹底できるよう再度、全職員できまりを確認する。 全校が集まることあまりないのことで全体の整列や揃えての礼、気を付け等の練習、話を静かに姿勢よく聴く態度等、高学年の姿から学ぶ機会を意図的に作っていく。 児童に名札の着用を徹底させられるよう声掛けを行うとともに、教職員も名札の着用を徹底する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 50周年式典での6年生児童が立派だった。担任の指導が素晴らしい。 他校と比べ、各種受賞者の発表がない。「憧れ」の気持ちを養うために全体表彰があってもよい。 月ごとの生活目標や1日のきまりの定期的な確認、情報モラル教室の実施等で児童の発達段階に合った内容が工夫されている。 規律ある態度の育成は、学校だけでなく、保護者、地域、警察、行政等が連携しながら時代や社会状況に応じて内容をアップデートしていく必要がある。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員も積極的に校庭に出て活動することで、子供の外遊びをさらに奨励する。 業間・昼休みの時間をなるべく確保して、子供が外遊びができる環境づくりを進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> サンサンタイムや朝、校庭で遊ぶ児童が多い。 なわとはは楽しそうです。 限られた環境の中で可能な取組がなされている。 昨年度予告していた取組が実行されていない。 運動課題に対する児童の意見や研究内容をポスターとして掲示したり、さまざまな運動や遊びを取り上げたランキングづくりをして児童の主体性や興味を引き出す工夫が見られるクラスもある。 集団運動に苦手意識をもつ児童への配慮や心理的負担への対策を講じなければならない。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストを実施するだけでなく、体力アップカード(昨年の自分の記録)をもとに、自己分析→目標設定→練習→実施→ふりかえりのサイクルが、学年に応じて確立できるよう、体育部や体力向上、研修部を中心に計画立てていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ケガが心配ではあると思うが、健康のために体を動かしてほしい。 苦手な児童を応援するような支援がよい。 指導が継続的になされている。 コロナ後で集団での遊びに不慣れだった子供たちを援助していて、その成果が感じられる。 体育科の研究に継続的に取り組み、児童一人ひとりの資力・能力を伸ばすことを目指した授業づくりが行われている。 運動の取組のねらいや成果、課題について概要だけでなく学校運営協議会委員と共有できるとよい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 八枚のはねの方々とやりとりをもう少し簡単にできるよう窓口・仕組みを整えていく必要がある。 学校運営協議会や年2回の学校応援団拡大大会を有効活用して、必要な支援を必要な時にお願いできるよう教頭を中心に連携していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校農園で育てた作物を収穫し、それを給食に活用する教育がいい。 学校応援団としても参加しているの、様子がわかる。 授業補助や見守り等地域との連携が取れている。 多様な取組で子供たちの経験や遊びににつながっている。 広報、周知がもっとあつてよい。 地域の教育力を教育活動に取り入れていて、児童の学力・体力の向上、体験的な学びの充実にも寄与している。 関係団体との取組の効果や課題を振り返る機会がない。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせや九九検定、校外学習の引率見守りなどたくさんのご協力をいただいでいてありがたい。今後も協力していただけるよう、学校応援団、地域の方々とつながりを大切にした学校運営に努めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいまつりへの協力がほしい。保護者だけでなく、その家族や卒業生に声掛けをすることも必要である。 登下校の際、一部の方は一生懸命だが、見守りがありすぎではない。 登校が難しい児童への個別の見守りも必要だと感じている。 読み聞かせや家庭訪問等八枚のはねの活動は大きな力がある。 教職員が子供たちを育ててくれていると実感すると保護者も何かしたいと思えるものである。登下校の見守りはもう少しゆるゆるとする機会を高めたい。 八枚のはねを筆頭に継続的に関わっている方々の活動は、学校にとって大きな支えとなっている。 学校運営協議会として、今後の担い手の備えを正し、無理のない形で多くの人々が学校に関われるよう保護者、地域、行政と連携していく必要がある。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入
 Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満